

# ορπανος

## Vol.15

特集

### 『教養学部・新学科設置に向けて』

NEW WAVE T.G.U.

— 地域構想学科（設置認可申請予定） —

ウーラノス

「ΟΥΡΑΝΟΣ（ウーラノス）」は、「天」を意味するギリシャ語です。新約聖書は、キリスト教最初の殉教者であるステファノについて、「ステファノは聖霊に満たされ、天を見つめ、神の栄光と神の右に立っておられるイエスとを見て、「天が開いて、人の子が神の右に立っておられるのが見える」と言った（使徒言行録7章55～56節）」と伝えています。この個所にも οὐρανός の語が用いられています。



2004  
FEBRUARY



「熱心に努めよ」の言葉が聖書に少なからず見いだされます。この言葉は、東北学院大学に託されている教育を遂行する姿勢とも共鳴します。充実した教育を提供できるよう熱心に努めるとの姿勢です。本号では、2005年度を目標としています教養学部新学科開設について紹介させていただきます。皆さまのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

- 特集 NEW WAVE T.G.U. … ①
- 学生たちは、今 … ⑤
- 入学試験の実施状況 … ⑥
- 学長室より … ⑦
- 歴史を伝え、今に導く … ⑧
- 大学院より … ⑨
- 学部より … ⑩
- 国際交流センターより … ⑪
- 研究所・センターより … ⑫
- 図書館より … ⑬
- 協奏、そして共創へ … ⑭
- 就職部より … ⑮
- 入試センターより … ⑯

表紙：多賀城キャンパス2号館

## 『教養学部・新学科設置に向けて』



東北学院長・大学長  
倉松 功

東北学院大学は、教養教育型大学としての歴史と伝統のもとに、教育と研究の改革を推進し、2005年4月に、教養学部新しく「地域構想学科」を開設するための申請を予定しています。これに伴い、現在の教養学科3専攻を、それぞれ人間科学科、言語文化学科、情報科学科とし、教養学部は新たに4学科でスタートすることになります。

地域構想学科は、地域住民が「よりよい生活」を安心して営むために何が必要かを考え、それを実現するために必要な知識と技法を学ぶ学科です。そのために、「生活資源の獲得（市場経済、行政、相互扶助）」「生涯にわたる心身の健康（地域福祉と地域スポーツ）」「人と自然のかかわり（水、大気、土、生態系）」に関する専門知識を学び、それらを「基礎づける思想」を考えることになります。地域という「現場」、フィールドで学ぶことを重視し、大学外の調査活動・実践活動が学科の大きな特色です。

地域構想学科は、従来にない意味での「地域おこし」を目標にしています。人が人や自然とのかかわりの中で「よりよく生きる」とはどういうことかを問い続けながら、地域を構想するからです。主たるフィールドは東北や日本ですが、地域を生きる人間一般についてグローバルに考えていきます。



# —地域構想学科(設置認可申請予定)—

## はじめに

教養学部は、1989年4月の創設以来、人間科学専攻(入学定員70名)、言語文化専攻(旧名は言語科学専攻、同70)、情報科学専攻(同60)の3専攻からなる教養学科のみの学部でしたが、予定どおり行けば、来る2005年4月より、それぞれの専攻が人間科学科、言語文化学科、情報科学科に昇格し、さらに「地域構想学科」が新設され、4学科の学部になります。各学科とも入学定員は100名ですので、学部全体では従来の200名から400名に倍増します。

以下にお伝えするのは、改組に伴って新しく生まれる「地域構想学科」の姿ですが、特に『ウーラノス』読者の皆さまには、教養学部改組と学科新設の意味をよりよく知っていただくために、改組案成立に至るまでの経緯と基本姿勢について、まづご説明します。

## 教養学部の理念

### —教養—

改組のきっかけとなったのは、文部科学省の新方針(教養系の学部も一般学部並みの教員数でよいという新方針)に沿って、本学が今も進めつつある、教員数と学生数に関する学部間の調整でした。この調整にきちんと対応するために、教養学部は何らかの改組を行う必要がありました。いかなる改組がふさわしいかをめぐって、2002年2月から、教養学部を中心とした全学的検討が始まりました。

今振り返ると、改組案を作るにあたって教養学部が自らに課してきた条件は、次の4点でした。第一に、これまで依拠してきた「学部理念」を今まで以上に体現できるような改

組とすること。第二に、学部の重要な特色である「少人数教育」を堅持できる改組とすること。第三に、受験生を少しでも多く期待できる改組とすること。そして第四には、「地域と環境」を扱う分野として教養学部への参加を希望していた文学部史学科地理学系の人材を活かす改組とすること。

以上の4点のうち第一の「学部理念」については、残念ながら十分な理解を得ていない面がありますので、ここで改めて記しておくことにします。教養学部にとって「教養」という概念は、単なる「物知り」を意味するのではなく、人間に関わる諸学問を横断的に援用しつつ、現代社会の諸問題を自ら発見し解決できるような知性のことを指します。教員たちはキリスト教学、哲学、心理学、社会学、言語学、教育学、物理学、コンピューター科学等々、さまざまな専門バックグラウンドを持っていますが、教養学部が育てようとしてきたのは、そういった既存の学問の単なるエキスパートではなく、それらの知見を縦横に利用できる柔軟な知性の持ち主(知恵を有する人格)なのです。

このような「学部理念」をよりよく体現できるような改組でなければ、改組の意味はないと教養学部は考えました。さらに残りの諸条件を満たすべく、既存3専攻については大きく手を加えずにそのまま学科に昇格させ、これら3学科と高めあう新学科を創設するという方向がまず定められました。新学科については、さらなる検討の結果、「地域」をキーワードに、よりよき「人と人のつながり、人と自然のつながり」を追究する実践的な学科にするというガイドラインが設けられました。以上のことが2002年晩秋までに全学レベルで合意されたのを受けて、新学科のより具体

的な姿が固められていき、名称も「地域構想学科」に絞られました。

こうして、2003年7月までに教養学部の最終案として全学から承認を受けた、新学科の具体的内容を、以下にご紹介しましょう。

## 地域構想学科のカリキュラム

### —3つの観点—

学科カリキュラム構成は、基礎論分野という土台の上に3本柱が立つ格好となっています。まず3本柱についてですが、これらは多面的な現実の中を生きる人々を見るための、3つの観点を表しています。

人間は実に多面的な現実の中で生活しています。一例として、現代日本の農村地域に暮らす人々の場合を見てみましょう。農業は、言うまでもなく、水、大気、土及び生態系と直接関わる生産活動ですから、人々の生活はまず自然環境という現実の中にあります。しかし、農産物価格の変動や農外労働機会の減少(工場閉鎖など)といった事態からすれば、生活は日本全体から世界にまで連なる市場経済世界という現実にも組み込まれています。もちろん、食料といった生活必需品の大半も、市場経済世界から入手するしかありません。ただし、そのような市場経済世界それ自体は、そのまた外部にある自然環境とのやりとりで成り立っています。他方、人々は税金を払うことで、国や地方自治体から道路や医療といったさまざまなサービスを受けていますから、行政の世界という現実の中を生きてもいますし、また、親族や近隣との間の相互扶助という現実の中を生きてもいます。ところで、農村地域では高齢者が多く、健康維持や介護に関わる福祉が特に必要ですが、

# 『教養学部・新学科設置に向けて』

—地域構想学科(設置認可申請予定)—

地方自治体は現在、住民の行政参加や新しい相互扶助(NPO・ボランティア)に期待し始めています。こうして、人々は健康維持や介護に関して、新しい現実を組み込まれようとしています。

このように人が多面的な現実を生きる様子は、農村地域に限らずどこでも同じです。そこで、それらをよりよく読みとるために、第一に生活資源獲得(市場経済・行政・相互扶助)という観点、第二に地域福祉・健康・スポーツという観点、そして第三には自然環境という観点の3つを設け、それぞれに専門研究者を配置し、3本柱としたのです。学生たちには、この3つの観点それぞれに取り組んできた諸学問を身につけさせ、現実のさまざまな問題を複眼的に考えてもらいます。過疎と過密、空洞化現象、住民の行政参加、NPO・ボランティア、少子化・高齢化、健康問題、介護問題、環境破壊、資源枯渇など、現代社会に指摘されてきた問題は、既に山ほどあります。

## 現場からの発想

### —専門家視点と生活者視点—

4年間の履修の流れを簡単に述べるなら、1・2年生には教室授業を通じて3本柱の全てを概観させるとともに、さまざまな「現場」に触れる実習を教員主導で行います。そして3・4年生では取り組む柱を1本に絞らせて、自らのテーマに合ったゼミ教員の指導の下に、各自設定の「現場」を通じた研究を進めさせます。

「現場」に常に出入りさせるといふ特色にお気づきになったと思いますが、このようないわば「現場主義」には、「社会参加好き」の受験生を吸収したい願いとともに、極めて本質的な意味が込められています。そ

れは「専門家視点」と「生活者視点」との間で往復運動させるという独自の教育方針です。

既に見たように、人間は多面的な現実の中を生活しています。しかしながら、専門家(研究者や為政者)は、自己の専門に沿って人間生活の特定側面だけを切り取り精密な現実モデルを作ります。それはそれなりに価値があるのですが、そのような現実モデルを根拠に作られる政策は、専門性の権威も手伝って、生活者の多面的現実を一面的に規定してしまいがちです。簡単に言うなら、専門家は専門家であればあるほど、生活者の実情がわからないということです。今必要とされているのは、多面的現実の中で「よりよく生きる」ための方策を、生活者の視点で、生活者自らが考えていくことです。学生に「現場」への出入りを4年間課すのは、さまざまな「専門家視点」を学びながらも、「現場」にかかわり続けることによって、人間が複数の現実を生きていることに否応なく気づいてもらい、「生活者視点」にいつも立ち返るセンスを身につけてほしいからです。

ちなみに、3本柱から1つを選んで専門特化する3・4年生も、「生活者視点」を維持する限り、残り2本の柱に目を向けざるを得ないでしょう。ということはまた、文系・理系という分け方も大きな意味をなさなくなるはずです。

## 基礎論分野

### —3つの領域を支えるもの—

さて、以上の3本柱の土台には、基礎論分野があります。この分野は入門分野ではありません。過疎であれ介護であれ環境であれ、現代社会のいかなる問題を考える場合

にも、小手先の技術による対処には限界があります。問題の発見と解決を真摯に行うのならば、人が人とのかかわりや自然とのかかわりにおいて、「よりよく生きる」とは本当はどういうことなのかを追究する必要が出てくるからです。これを行おうとするのが、基礎論分野なのです。この分野では、哲学、倫理学、思想史、社会理論、文化論、環境論等の知見を動員して、近代国家や市場経済といった現代社会の基本枠組の構図を描きつつ、これを歴史的ないし文化論的に相対化し、新しい社会のあり方を包括的に構想しようとしています。

例えば、地域構想学科では、経済合理性によってのみ動く人間像を自明の前提とはしませんから、特定地域をただ市場経済的に発展させればよいとは考えません。(それゆえ新学科は地域産業再生を目指す古い意味での「地域おこし」の学科ではありません。いわんや、サービス産業系の事業構想に主眼を置く宮城大学事業構想学部と異なることは言うまでもないでしょう。)  
「基礎論分野」は、一見理屈っぽい分野なので受験生への売りにはできないと思います。しかし、この分野は新学科を決定的に深く方向づける分野です。このため、主として2年生を対象にほぼ必修の科目群を設け、「地域構想」の思わぬ深みにおいていってもらうことにします。

## 期待

### —賢明な生活者視点を持つ人材輩出—

地域構想学科が育てたい卒業生は、以上からおわかりのとおり、特定分野の専門知識や現場知識だけでなく、「賢明な生活者視点」をも兼ね備えた人物です。卒業生の



就職先には、自治体の地域福祉部門、健康維持部門、環境対策部門、住民組織部門等が考えられますし、同様の分野に関わる民間企業やNPO団体もあり得ます。企業内の健康管理部門や環境対策部門などへの就職もあることでしょう。また、中高教員資格(社会科系)を取得して教員になる道も開かれています。学科で身につけた専門知識や現場知識が、即戦力として評価さればうれしいものです。しかし、地域構想学科が望むのはそれだけではなく、「賢明な生活者視点」によってひと味違った提言ができるスタッフになってもらいたいです。地域構想学科はまた、「賢明な生活者視点」を持つ人が「ふつうの」世界にも大いにいてほしいと考えます。サラリーマン、主婦、中小企業の後継者といった「ふつうの」立場に落ち着いた卒業生たちが、他の生活者とのかわり合いを通して自らの生活を考え、静かに社会を変えていくことに、密かな期待を寄せています。

## おわりに

以上、教養学部における新学科「地域構想学科」について、学部改組に至る経緯や基本姿勢から始めて、ご紹介しました。新学科については、受験生がどれだけ集まってくるかの心配がないわけではありません。しかし、先にあげた現代社会の諸課題のいずれかに関心を持つ真摯な受験生であれば、この新学科で間違いなく充実した4年間を過ごせると思います。これを社会にどのように周知させていくかが、今後1年あまりの時間に残された課題です。

# Close Up

## 法科大学院いよいよスタート

今年4月開設に向けて、本学が文部科学省に設置認可を申請していた大学院法務研究科(いわゆる法科大学院)について、昨年11月27日、正式に認可が下りました。定員は50名、専任教員は当初の13名から1名増の14名でスタートします。

入学者選抜は前期日程(募集定員40名)がすでに終了しています。出願期間は12月10日~17日で175名の出願がありました。選抜試験は、1月11日・12日に本学土樋キャンパスで行われました。1日目は教養試験と小論文試験、2日目は面接試験でしたが、受験者が募集定員の4倍を超えたため、面接受験者160名は適性試験と教養試験の成績によって選抜されました。合格発表は1月22日に行われ40名の合格者と10名の補充合格候補者が発表されました。後期日程入試は、出願期間が2月16日~19日、選抜試験が3月2日・3日、合格発表は3月18日です。

ところで、本学法科大学院の学納金は、授業料142万円、施設設備資金40万円とすることがすでに決められています。開設年度となる平成16年度の入学生については、次の3つの給付奨学金制度が準備されています。①開設時特別給付奨学金として入学者全員に60万円を給付する。②入学者のうち入学試験の成績上位者13名(前期日程から11名、後期日程から2名)には入学時特待生奨学金として50万円を給付する。③入学後、前期の成績上位者13名には特待生奨学金として50万円を支給する。また、成績上位5名については給付額を72万円とする。①~③をあわせると最大で182万円の給付を受けられることになります。

これらは、法科大学院の学費について、国公立大学と私立大学との格差を是正するために、文部科学省が私立大学に交付する補助金をふまえての措置です。平成17年度以降の学納金については、この補助金の交付状況や他大学法科大学院の学費などを参考にしながら、平成16年度中に再検討される予定です。

問い合わせ先 大学院事務室  
TEL.022-264-6365

## 私のフランス再発見

東北学院大学には、国外で学術の研究や調査を行う在外研究員制度があります。教養学部の佐藤篤教授が、平成15年9月1日から平成16年8月31日の期間、フランスのCEA-SACLAY大学で研究を行っています。

### 教養学部(教養学科情報科学専攻)教授 佐藤 篤

昨年の9月から在外研修でフランスにいます。フランスやヨーロッパの私のイメージが今大きく変わりつつありますが、私の中で当たり前になる前に、この場をお借りしてそのショックを書きとめることをお許しください。

私の発見したフランスは、豊かな自然に恵まれ広大な農地を持つ国家です。日本のように山間に農地や町が散在するのは南フランスやアルザスなどの一部だけで、あとはゆったりと蛇行して流れるセヌ、ロアール、ガンヌなどの川が、広大で豊かな自然を育んでいます。繊細な四季の移ろいに代表される日本の自然とは明らかに異なるものです。農民を描いたミレーの絵の祈りには、その豊かな自然の恵みへの感謝が込められているように見えてきます。ルーブル美術館ではギリシャ、ローマ、フランスの文化の推移や関係を辿ることができそうですが、ギリシャの模倣から始まったローマ文化が、その後のキリスト教の影響下独自のものを確立する過程、千年以上もの間ローマを手本としてきたフランスが、豊かな自然に根ざした独自のものを模索しはじめるあたりはなんとも面白いところです。あのサモトラケのニケの、時間の止まった地中海の透明な空気はローマでもフランスでも再現されていませんし、フランスでも絵画のバルビゾン派に限らず、生きた自然に根ざした独自のものが随所に見られます。結局、意図とは別に技術のみが長い時間をかけて移転され、その技術がそれぞれの固有の豊かさの増大に寄与したように思われるのです。

さて、グローバル化とインターネット技術の時代、これからの世界はどうなるのでしょうか。私には、競争ではなく、それぞれに固有なものへの尊重が鍵になるような気がするのですがどうでしょう。



# INTERVIEW

## 学生たちは、今

本学最初のAO入試で入学した学生が、まもなく卒業を迎えます。今回の「学生たちは、今」では、そのような節目に立つお二人から、大学生活で培ったことやこれからの目標などについて話を伺いました。

### 常に目標を持って進むこと



工学部電気工学科4年

飯山 雄介 さん

鹿沼東高等学校卒業  
(栃木県)

AO入試で受験した理由について聞かせてください。

中学・高校と続けてきた弓道をいかにして大学受験をしたいと思っていたのですが、理系の大学で弓道の推薦枠を設けているところが大変少なく、一般受験に取り組もうかと思っていた時に東北学院大学でAO入試が行われることを知ったからです。

AO入試の頃に抱いた目標はどのようなことですか。

電気や機械関係の仕事に就くことを目標に、興味のわくことにはとことん取り組もうと思っていました。幼い頃から、ドライバーを持って掃除機やラジオを分解するくらい機械が好きでしたし、高校時代には数学の面白さに目覚めていたので、大学での勉強は好奇心の延長のようなものだったのです。

4年間の大学生活で印象に残っていることは何ですか。

AO入試では、高校時代の弓道の成績をアピールしたのですが、正直なところ、大学では高校ほど一生懸命に取り組もうとは思っていませんでした。しかし、いざ始めてみると中途半端ではいられなくなり、その結果、全国大会である程度の成績を収めるところまで頑張っていました。「いつもフル回転」。私の大学生活はこの言葉につきまします。どのような時も、勉強に部活にアルバイトにと、精力的に取り組んでいたように思います。

飯山さんにとって、大学とはどのような場所ですか。

自分の好きなことを見つけ、取り組む場所です。さまざまな学問に触れることで視野が広がりますし、

興味や学習意欲に応えてくれる環境も整っているので、チャンスの宝庫ともいえると思います。

卒業後の目標や、かなえたい夢について聞かせてください。

自動車製造にかかわる企業に内定が決まっています。当面の目標は、一日も早く一人前の設計者になることです。入社後は、今まで学んだことに加え、新しい分野についても学ばなければならないので、自分なりの目標を掲げて頑張ります。

本学の後輩やAO入試で受験する後輩にメッセージをお願いします。

自分の夢をしっかり持ち、自分を見失わず、自分の土台をしっかり築くこと。それが大学生活で心がけるべきことだと思います。常に目標を持って前へ進んでください。

### 人とのかかわりが自分の価値観を築く



教養学部教養学科  
情報科学専攻4年

相澤 絵梨香 さん

聖ウルスラ学院高等学校卒業  
(宮城県)

AO入試で受験した理由について聞かせてください。

一般入試は試験の結果だけで判断されますが、AO入試は小論文と面接で人間性を見てもらえるというところに興味を持ち、受験しました。面接で教授陣と直接話ができるのも魅力の一つでした。自分が学ぶ学部のことを入学前に詳しく知りたいと思っていましたから。

AO入試の頃に抱いた目標はどのようなことですか。

高校時代の化学の先生がパソコンを使ってさまざまな教材を見せてくれたことで、パソコンが使えれば何でも学べると考え、プログラミングを学ぼうと思いました。また、好きだった数学をもっと学びたいという思いもありました。

4年間の大学生活で印象に残っていることは何ですか。

一つは、学生アルバイト委員会の活動です。ここでは多くの人とかかわり、卒業後も付き合いが続くであろう友人をたくさん得ることができました。もう一つは、プログラミングの授業です。一方的に知識を伝達するのではなく、実習を重視した「投げかけ、考えさせる」授業は、教師を目指す私に良い影響を与えてくれました。

相澤さんにとって、大学とはどのような場所ですか。

学問を学ぶだけでなく、人とかかわりの中から、自分の価値観や物事の考え方などを培う場所だと思います。私はもともと内向的な性格だったのですが、委員会活動でさまざまな人とかかわりを持ったことで、初対面の人とも打ち解けて

話せるようになりました。

卒業後の目標や、かなえたい夢について聞かせてください。

情報と数学の教職課程を選択し、教育実習を体験したことで教師になりたいという思いが強くなりました。パソコンを操ることだけに終始せず、情報に関するニュースを織り交ぜて授業を組み立てていきたいと思っています。情報に関する法律は、次々に新しく制定されていますので、リアルタイムで教えていかなければなりませんから。

本学の後輩やAO入試で受験する後輩にメッセージをお願いします。

大学で出会った友人は、一生の財産です。積極的に人とかかわり合って、自分の理解者を増やしてください。

# 入学試験の実施状況

平成16年度入学者選抜のための各種推薦入試、社会人特別入試(A日程)、AO入試(A日程、B日程)等が、昨年12月までに終了しました。その結果は以下のとおりです。

## 学業成績による推薦入試

学業成績による推薦は「指定校制」をとっており、本学が指定した高校から、指定された学科・専攻に推薦された方だけが受験できます。受験した方は、特別の事情のないかぎり合格となります。今年は定員388名に対し、出願者は429名で、受験者は全員が合格しました。

## 資格取得による推薦入試

経営学科のみ対象で、本学が指定した商業高校から推薦された、簿記の一定の資格を持った方だけが受験できます。今年は昼間主コース、夜間主コースあわせて22名の出願があり、21名が合格しました。

## キリスト者推薦入試

プロテスタントだけでなく、カトリックの方でも出願できます。今年の出願者は4名で、4名とも合格しました。

## スポーツに優れた者の推薦入試

全国どここの高校からでも出願できる公募制です。出願予定者に対して実施している予備審査に、今年もほとんどの方が申請されました。出願者は全学科・専攻あわせて128名あり、入学後に活躍が期待される112名が合格しました。

## 夜間主コース社会人特別入試(A日程)

英文、経済、経営の3学科の夜間主コースで学ぶ、社会人のための特別入試です。今年の出願者はあわせて4名で、4名とも合格しました。この試験に合格して入学し、一定の職業を有している方を対象に、本学独自の給付奨学金制度があります(出願時に申し込むことになっています)。夜間主コース社会人特別入試は、3月8日にB日程としてもう一度実施されます。

## アドミッションズ・オフィス(AO)による入試

面接と小論文を中心とした新しいスタイルの入試です。今年、A日程の第一次選抜(書類審査と面接)に931名、第二次選抜(小論文と短い面接)には462名が出願し、289名が合格しました。また、B日程の第一次選抜には104名、第二次選抜には61名の出願があり、26名が合格となりました。

## TG推薦入試

東北学院高等学校と東北学院榴ヶ岡高等学校からの推薦入試です。東北学院高等学校からは92名、東北学院榴ヶ岡高等学校からは79名の出願があり、全員が合格しました。

COLUMN WELL

## 東北学院大学 カウンセリング・センター 公開講演会

「生と死の意味を考える—脳神経外科  
医の立場から—」

カウンセリング・センターでは、11月11日(火)に恒例の秋季公開講演会を開催しました。今回は、国立仙台病院院長の桜井芳明先生を講師に迎え、生と死に関するお話を頂きましたが、本学学生のほか、多数の一般市民のご参加も得て盛況でした。桜井先生は、脳神経外科医としての経験から得たご自身の死生観について熱く語られ、また実際の脳手術場面の映像なども示しながら、普段から生と死について考えることの重要性を示してくださいました。

## 産学連携推進センター主催 講演会

産学連携推進センターでは、11月6日に東北大学未来科学技術共同研究センター(NICHe)の伊藤弘昌ボードチェアマン(前センター長、東北大学電気通信研究所教授)を講師に招き、「地域と大学の関わり—東北大学における産学連携について—」と題して講演会を開催しました。NICHeは本学のセンターとは違い大きな組織ですが、基本的な考え方、運営の方法など講演の内容には多くの学ぶべき点があり、地域と大学との連携の重要性を再認識しました。

# From the President.

## 学長室より

### 記念される二人の思想家

学長 倉松 功

2003年末から2004年の初めにかけて、日本をふくめ世界は二人の18世紀の思想家を記念し、また記念しつつあります。

一人は、昨年12月18日に歿後200年を迎えたJ.G.ヘルダーです。かれは、1776年10月、ワイマール大公国宰相ゲートに招かれ、その大公国の教会の最高の地位にあたる監督(ただしGeneralsuperintendent)として25年間その職を兼ねながら、ワイマール市—今日通称ヘルダー教会と呼ばれる—の主教会の牧師を務めました。その神学は、ルター正統主義を尊重しながら、当時のヨーロッパ全体の歴史、思想、科学、芸術、民衆の歌曲などに広く関心を有し、ロックやヒューム、ルソーなどにも通じた汎ヨーロッパ的思想家でありました。ヘルダーは、人間を非行に走りかねない(不良な)神の似像と規定し、完全な人間性の回復を神の創造の復元(recapitulatio)に見ました。その点でもルターの継承者でありました。東北学院の立場から興味のあるのは、前記ヘルダー教会内のかれの墓石に「光、愛、生命」、すなわち、Licht, Liebe, Lebenと記されていることです。東北学院のスクールモットー「生命、光、愛」(Life, Light, Love)と少し順序は違いますが、全く同じ言葉が選ばれているのです。

今一人の思想家は、2月12日に歿後200年を迎える哲学者I.カントです。カントは、ドイツのみならず、世界の哲学界を代表する一人です。ここでは、啓蒙主義の批判者、完成者という側面からでなく、特に現代世界の問題に対する意義という角度から触れてみます。それは、ドイツ理想主義(観念論)哲学者の中で、19世紀、20世紀を通して唯一無傷で残ったのはカントだけといえるからです(「シュピーゲル」誌 Nr. 1.29/4. 03, S.122)。

カントの現代的意義ということで注目すべきものの一つは、かれの『永遠の平和のために』でしょう。本書は、カントがその主著である三大批判書『純粋理性批判』、『実践理性批判』、『判断力批判』の出版を終え、既に晩年に達していた1795年に公にされたものです。本書は、永遠の平和のための六つの予備的条項と、同じく永遠の平和のための三つの確定条項、それに二つの付録からなります。第一の予備的条項六つは、第一条「将来の戦争の種をひそかに保留して締結された平和条約は決して平和条約とみなされてはならない」、第五条「いかなる国家もほかの国家の体制や統治に暴力をもって干渉してはならない」、第六条「他国との戦争において、将来の平和時に相互間の信頼を不可能にしてしまうような行為をしてはならない」などです。確定条項の第一は、市民的体制は専制的でなく、共和制的(今日でいえば民主的)でなければならないといっています。最も注目すべきは、「国際法は自由な諸国家の連合制度に基礎を置くべきである」とする第二の確定条項で、この項の中で諸民族の統一国家でなく、国際連合を提唱していることでしょう。確定条項の付録として政治と道徳との一致を求め、道徳的完成を目指す国家形成や法と道徳と一体となった政治を要求しています。その際カントはプラトンと異なり、哲学者が王となる哲人国家を退け、法的状態(公法)が道徳と一致することを主張するのです。とはいえ、カントも公法が道徳と一致することは困難で、限りなくそれに近づい

かないこと、道徳的完成を目標とすることを望み、期待するにとどまっています。

このような目的の王国は、かれ以後のプロテスタント神学者たちに継承され、その際その目的の王国を実現する力・推進力として、プロテスタント・キリスト教の重要概念である「義認や(神との)和解」が論じられたのです(例えばA.リッテル参照)。

しかし、カント自身はそのような神学理論を展開しませんでした。あくまで人間の自由意志を動かす「キリストの設定した教えとしての愛」に注目し、「キリストの人格と自由な愛の勧め」に基づく理性的判断と道徳的行為に固執しています(カント『万物の終り』、『啓蒙とは何か』に所収103頁以下参照)。このようなカントの立場は、当時の教会の教理や教会制度を批判するものとなりました。カントのキリスト教観はかれの『単なる理性の限界内の宗教』に詳述されています。カントはキリスト教を否定していたのではありません。それを前述の『永遠の平和のために』の前年に記された『万物の終り』によって今少し検討してみます。

『万物の終り』は、表題からすると終末論ですが、その内容はこの世の目的(終り)としての最高善の成就について述べたものです。前述の目的の王国についての再論です。カントによれば、万物の究極目的である最高善を成し遂げることのできるのは、神だけです。最も完全な人間でも最高善をただ切ない気持ちで追いつめていただけです。しかし、その目的がいかに善であるにせよ、道徳的事柄に関しては、命令や権威による強制でなく、愛による促進、自由意志の説得に努めねばならないと、カントは主張しています。要するに、「勇気をもって知恵ある者となれ(sapere aude)」というカントが提唱する啓蒙の合言葉と、それを実践する「有限性と限界の中にある人間(理性)による仮借ない批判」は、キリスト教を排除するものでなかったことは明らかなように思われます。そのことを今日ドイツ・カトリック教会司教会議議長も主張しています(K.K.レーマン:Die Zeit 31/4.3)。(ここまでのカントの引用はすべて岩波文庫による)。このようなカントのキリスト教についての考えですが、かれの歿後間もなく編集出版された『I.カントの哲学的宗教論に関する諸講義』(Leipzig 1817刊 編者不詳)200頁以下では、神の啓示が語られ、空想による恐ろしい景景、迷信的崇敬、偽善的鑽仰を批判した後、「私になしうだけの善を行えば、それは遠からず私を安らかにする、とわれわれの理性が語るならば、それがわれわれの深く静かに沈黙した理性である」とあります。この言葉は、カントのいう理性的道徳的信仰からみて最高の完全な道徳性に達しない人間に対する実践的宗教的勧め、慰めと解することができます。それともこれらの言葉は「ベストをつくせば、神はよくやったといって罪を赦し、共働の恵みという聖霊の助けを与えて義を成就する(救いを与える)」と言った中世末期のオッカム主義の再来、行為義認なののでしょうか、はたまた徹底した理性主義だけなのでしょうか。

いずれにしても、日本におけるカント歿後200年の記念はどのようなカントになるのでしょうか。注目したいものです。

(平成16年1月23日記)



## 東北学院を第二の母校とした 内ヶ崎作三郎

経済学部教授 仁昌寺 正一

吉野作造、小山東助とともに「宮城県における大正デモクラシーの三羽鳥」といわれる内ヶ崎作三郎が、第二高等学校(二高)時代に東北学院関係者から大きな思想的影響を受けたことについては、本誌第13号の「大正デモクラシーの源流としての東北学院」で言及しました。その後、内ヶ崎は、東京帝国大学(現東大)に進み、やがて早稲田大学教授となり、1924(大正13)年には代議士に当選、以来当選を重ね衆議院副議長まで務めました。「地元で『先生』と言えば、作三郎を指したといわれるほどの実力者であった」(『宮城県百科事典』)といわれます。

その内ヶ崎は、事あるたびに東北学院を支援する行動をとっています。例えば、1936(昭和11)年の東北学院創立50周年時には、当時の帝国議会で次のように発言しています。

「仙台に東北学院と言う基督教主義の私立学校がございまして、一昨日より創立五十年祭を行って居るのでございます。其学校の卒業生で、今院内に二人、今席を失って居られます人で前に入って居った人と三人、衆議院議員が出て居られるような訳でありまして、東北地方の精神的開発には大分力を致した学校でございまして、今も五十年祭の最中でございますから、此機会に於てどうか総理大臣は此ような特殊の精神的事業を経営して居る所の私学に対しましても、東北振興の意味よりして相当の御考慮を賜わりたいと言うことを申述べて、若し之に対して総理大臣の御考の一端を承ることが出来れば仕合せな次第でございます」。

ご覧のように、内ヶ崎は、東北学院は東北地方の「精神的開発」に尽力した学校であるから、この学校に「東北振興の意味よりして相当の御考慮を賜わりたい」と総理大臣(廣田弘毅)に迫っています(「第69帝国議会議案東北興業株式会社法案外一件委員会議録」、昭和11年5月12日より)。ちなみに、これに対して総理大臣は「何か私として致すべきことがありましたらば、後で御相談を致します」と答弁しています(同上)。

また、1938年7月18日には、東京で開催されたシュネーダー名誉院長の帰朝歓迎集会に出席し、「学院卒業生の飛躍を望む」とした上で、「私は学院同窓会には所属して居らないけれど、私は学院に対し多大の親しみと興味を感じる。であるから、私を少くとも学院同窓会の推薦組位にはして下さっても宜しいと思う」と挨拶しています(「東北学院時報」139号付録、昭和13年10月1日より)。さらに、その翌年のシュネーダー名誉院長の追悼式では、東京からかけつけて弔辞を述べています。

これらの行動からだけでも、内ヶ崎が、生涯、東北学院に対してどのような思いを抱いていたかが伝わってきます。彼にとっては、東北学院は第二の母校ともいふべき特別な存在であったと言っても過言ではありません。若き日に東北学院関係者から受けた影響が如何に大きかったかがうかがわれます。

ここでは、内ヶ崎だけに目を向けてみましたが、このほかにも、東北学院との直接的関係がなくとも、内ヶ崎のように「多大の親しみ」を持って東北学院を強く支援してくれた人たちがたくさんいると思われれます。東北学院の117年の歩みを振り返るとき、このような人たちの存在も決して忘れてはならないでしょう。

### 第4回目となる ホームカミングデー〔同窓祭〕 を開催

昨年10月18日(土)に、本学を卒業して20年目、30年目、40年目、50年目の方々並びに元教職員の方々を母校の土樋キャンパスに招待し、平成15年度ホームカミングデー〔第4回同窓祭〕を開催しました。これは、同窓生相互の親睦や現役学生との交流、また同窓生と大学の絆を深めていただきたいという願いから生まれた催しです。当日は、約300名の参加者を迎え、記念礼拝や特別講演会、昼食会などが行われました。



記念礼拝の様子

### 卒業式・入学式のご案内

- 平成15年度卒業式  
日時：平成16年3月24日(水)  
11時～12時30分  
会場：仙台市体育館  
(仙台市太白区富沢)
- 平成16年度入学式  
日時：平成16年4月5日(月)  
10時30分～12時  
会場：仙台市体育館

例年、東北学院大学の卒業式・入学式は、主役の卒業生、新入生のほか、来賓のご父母並びに先輩や後輩を祝福する在学生等に囲まれながら、キリスト教大学として、讃美歌を歌い聖書の言葉を聴く礼拝形式で営まれます。

両式典ともに、どなたでも自由にご出席いただけますよう、お席を用意しておりますので、多数のご出席をお待ちいたしております。

なお、会場には駐車場がございませんので、公共交通機関でのご来場をお願いいたします。

問い合わせ先 総務部総務課  
TEL.022-264-6412

LIFE, LIGHT AND LOVE FOR THE WORLD

## Graduate school info. 大学院より

### 法学研究科

#### 税務訴訟補佐人研修について

法学研究科は、東北税理士会からの要請をうけて、一昨年から「税務訴訟補佐人研修」を実施していますが、昨年12月に平成15年度の研修の全日程が終了しました。この研修は、税理士法が改正され、税理士の方が税金に関する訴訟（税務訴訟）に補佐人として参加できるようになったことにともない、税務訴訟に関する専門的知識を習得するために実施されたものです。研修では、大学院レベルの授業を6単位相当分受講することが義務づけられています。

昨年6月に東北税理士会を通じて参加者を募集したところ、東北6県が

ら20名の希望者がありました。研修の内容は、税法に関する授業が4単位相当分、民事訴訟法に関する授業が2単位相当分で、前者は本研究科非常勤講師の北野弘久日本大学名誉教授が、後者は本研究科の林伸太郎教授が担当しました。

授業は、東北学院同窓会館(TG会館)を会場に、7月24日～26日(北野教授)、8月21日～23日(林教授)、9月4日～6日(北野教授)と、あわせて9日間にわたって行われました。毎日90分の授業が4コマという強行スケジュールにもかかわらず、参加した税理士の方々は熱心にノートをとっ

ていました。

研修も大詰め近づいた9月5日には、研修参加者と講師の先生方との懇親会が開かれ、お互いに労をねぎらいあいました。この研修には、東北各県の税理士の方の交流、情報交換の場としての意義もあるようです。

一連の授業を受けた参加者は、10月末まで課題レポートを提出し、その内容が審査された上で、研修の修了が認められます。今回は、14名に対して修了証が交付されました。



## 多賀城キャンパス礼拝堂に パイプオルガンを新設

東北学院大学土樋キャンパス・ラーハウザー記念礼拝堂には、米国・メーラー社製パイプオルガン(1932[昭和7]年設置、二段手鍵盤・足鍵盤24ストップ、パイプ約1000本)が設置されておりましたが、1975(昭和50)年頃から演奏不能になるほど故障が頻発し、1978(昭和53)年12月、ドイツ・ベッケラート社製のパイプオルガン(三段手鍵盤・足鍵盤38ストップ、パイプ2525本)を設置しました。泉キャンパスの礼拝堂には、キャンパス開設の翌年の1989(平成元)年3月に、アルフレッド・ケルン社製のフランス・リード管を特徴とするパイプオルガン(三段手鍵盤・足鍵盤48ストップ、パイプ3486本)が設置されております。

今般、2004年4月の完成を目標に、多賀城キャンパス礼拝堂にもパイプオルガンが設置されることになりました。NHKホールのパイプオルガンを納入したドイツ・カール・シュッケ社製二段手鍵盤・足鍵盤29ストップのもので、春休み期間を工期とし、礼拝堂正面左手前バルコニーを設置場所として建てられます。残響改善のための内装工事(空席時1.8秒、満席時1.2秒)も昨年夏に行われました。多賀城キャンパスの礼拝堂からもパイプオルガン伴奏の讃美歌が響くこととなります。パイプオルガン披露の公開演奏会も立案中です。



パイプオルガンの完成予想図

## 学際的特色の人間情報学研究科—その確かな歩み—

### 人間情報学研究科

人間情報学研究科は、今、静かな臨戦態勢状態にあります。

その一つは、今年1月の修士論文、博士論文の提出締め切り日に向けた院生の皆さんの、最後の追い込みです。院生の皆さんは、食事をとる時間をも惜しみつつ、ひたすら原稿用紙(今ではほとんどパソコンですが)と日夜格闘している最中です。同様に、指導にあたっている先生方も、院生から提出される山のような原稿をひたすら読み続ける毎日です。今年度は、博士論文の提出予定者が3名もあり、院生と指導教員は日中はおろか、夜遅くまで最後の仕上げに向けて苦闘しているところ

です。

二つ目は、現在研究生で、来年度から本研究科の前期課程に進学予定のサラザール・ハビエル・アルベルトさんの研究です。彼は、ベネズエラからの国費留学生です。今年の前半は東北大学で日本語などの勉強をしてから、10月に本研究科の研究生となっています。彼の研究テーマは、サイバースペースにおけるアイデンティティの形成で、ゼミでは日本語と英語のディスカッションが行われています。第1回の発表の時には、日本語の練習もかねて、日本語で発表してもらいましたが、「日本語はとても難しい」と日本語で幾度

も言っていました。

三つ目は、カリキュラム改訂の準備作業です。平成17年度より、教養学部地域構想学科が新設される予定に伴い、人間情報学研究科のカリキュラムを拡充することになりました。現在、拡充による改訂のための作業が担当者間で進められています。

これら三つはいずれも、本研究科の今年度、来年度、再来年度に実現される事柄なのですが、研究科の中で深く、静かに潜航中です。時期が来て、すばらしい姿で浮上してくるものと信じて努力しているところです。

# Faculty info.

## 学部より



## 法学部

### 法学部教育のトップランナーを目指して

皆さんもすでにご存じのように、本学の法科大学院が文部科学省から認可され、2004年4月には授業が始まります。これは本学および法学部にとって、大変うれしいことです。ただ、その一方で、法律の専門家を育てるという役割が、法科大学院に移るわけですから、法学部ではどのような教育を行うか、が、必ずしもはっきりしくなくなります。これは、真剣に考えている大学ならどこでも悩んでいる問題ですから、近い将来、大きな論争となるかもしれません。カリキュラムやコース分けのあり方については、以前本誌でふれた時からあまり変化はありませんが、今回は、もう少し具体的に、授業のあり方についてお話しします。

従来の法学部の建前では、一応学生全員が法律の専門家をめざす可能性がある、ということになっていたため、講義でも演習でも、教員は司法試験や公務員試験を意識した「確立された専門知識」を教え、学生はそのような知識を「覚える」ことになっていました。しかし、これからは、司法試験合格に必要な専門的知識は法科大学院で身につけるわけですから、法学部の段階では、基礎的・基本的な知識を身につけると考えた方がよいでしょう。

法学部で身につける知識が基礎的・基本的なものだとしても、身につける方式が問題です。「教える内容はより精選する一方で、身に付く知識をより充実」させるためには、「問題は何なのか、その問題についてはどのような議論があるのか、問題を解決するにはどのような手段があり、どのような選択をしたらよいのか」、ということ、実際の具体的な事例を用いて考えさせる、すなわち、「問題・解決策発見型の授業」を開発して行く必要があります。

もちろん、このような授業の場合でも、「知識を覚える」ことが不必要なわけではありません。これまでとの違いは、「与える知識」は少なくなっても、「考える」習慣を身につけることにより、結果的に「獲得する知識」はより充実する、という点にあります。「基礎的・基本的」な知識というのは、必ずしも「やさしい」内容というのではなく、専門的な知識を応用するための土台となる能力を磨くための知識、という意味なのです。

上のようなことについては、必ずしも多くの法学部が考え始めているわけではないため、構想を早く完成させたところが、「法学部教育のトップランナー」となるでしょう。法学部は、上記のような授業方法の開発を推進するための予算を2004年度に申請し、「トップランナー」を目指して走り始めるつもりです。

## 輝く教育・研究

### 「政治」に無関心な人の「政治意識」

法学部教授 井上義比古

「政治意識」を中心に研究しています。政治学で研究されている「政治意識」には、人間が政治について考えている内容だけでなく、周囲の影響と自分との関わりの中で、どのように形成され、変化してきたか、形成された考え方に基いてどのような行動をするか、ということまでもが含まれています。

政治についてほとんど何も考えたことがないから自分は「政治意識」をもっていない、と言う人も結構います。しかし、政治学の立場からすれば、それは、「政治について考えていない」という形の「政治意識」だと判断されるわけです。そのような形の「政治意識」を解明するには、政策や制度に表現される政治的な考え方、学校教育の内容、親子関係や子育ての仕方の変化、マスメディアの番組内容など、一見すると「政治意識」に直接は関係していないように思われることについても、幅広く勉強する必要があります。





## 教養学部

### ユニークなテーマの教養講座を実施

昨春秋、教養学部教養講座を宮城県・県民大学との連携事業として実施しました。平成15年9月25日から10月30日まで全6回の開催です。毎週木曜日午後6時開講で100分の授業に、およそ40名ほどの県民の方々が参加されました。

実施に至るまでには、人間科学専攻の松本洋之先生を中心に検討を重ね、「達人を科学する」という、なかなかユニークなテーマ設定となりました。ねらいは、日頃「直感」とか「阿吽の呼吸」というようなあいまいな言葉で語られがちな技や芸そして腕などの世界を分析してみようというものです。さまざまな分野の達人の技・芸・腕の実態を検証しつつ、それらを科学的に捉える試みです。各回の内容と講師は次のとおりです。

- 第1回「武道の達人を科学する～弓道通矢競技日本一への挑戦～」  
講師：本学助教授 黒須 憲
- 第2回「遊びの達人を科学する～けん玉遊びから見えてくる社会～」  
講師：本学助教授 谷田部 武男
- 第3回「そば打ちの達人を科学する～そば打ちは創造である～」  
講師：本学教授 石川 文康
- 第4回「サッカーの達人を科学する～プロ選手のパフォーマンス～」  
講師：本学助教授 松原 悟
- 第5回「間合いの達人を科学する」  
講師：本学教授 櫻井 研三
- 第6回「エラーの達人を科学する」  
講師：本学教授 吉田 信彌

教養学部の幅の広さ、奥の深さがテーマにも現れている上、講師がそもそもその道の達人だったりすることもあり（吉田先生がエラーの達人というわけではありません、念のため）、大変興味深い内容の講座でしたので、もっともっと多くの方々に参加していただきたいかと思います。第4回はベガルタ仙台の試合観戦（この回のみ土曜日実施）も含まれていましたから、もしかしてたくさんの希望者で抽選も必要か、とも危惧したのですが、そんなこともありませんでした。各回、参加者には大変好評で満足していただいたのですから、広報の方法等の検討が必要だと感じさせられました。夕方6時に泉キャンパスまで出向く、というのが一般の方々には難しかったのかもしれませんが。また、平成17年度の学部改組に向けて教養学部は大忙しの真っ最中、講座に関わった諸先生は大変だったと思います。

来年度も教養学部は、開設以来の大変革に備え、新たな試みにチャレンジし続けるでしょう。

## 輝く教育・研究

### 人にやさしいコンピュータシステムの実現

教養学部（教養学科情報科学専攻）助教授 杉浦茂樹

近年のコンピュータとネットワークの性能の向上により、計算速度や通信速度などの量的な問題については、ほぼ解決されつつあります。一方、使いやすさや安全性などの質的な問題については、残念ながら未解決な問題も多く、未だ発展途上といえます。

本研究室では、質的な問題である「人にやさしいコンピュータシステムの実現」を目指し、理論と実践の両面より、学生と教員が協調しながら、日々研究に励んでいます。

具体的には、(1) 研究開発活動における創造性の支援、(2) インターネットを活用して遠く離れた人間同士の円滑なコミュニケーションの支援、(3) 障害者や高齢者の積極的な社会参加の支援、などを行うコンピュータシステムに関する研究を行っています。

## International info.

### 国際交流センターより

#### 韓国・大仏(デブル)大学校 —8校目の協定校に

国際交流センター所長 小田 三千子

2003年10月10日に、東北学院大学は韓国の大仏大学校と国際学術交流並びに教育協力の協定を結びました。10月9日に、倉松功学長と関係者一行が訪韓し、10日午前10時に大仏大学校で調印式が行われました。大仏大学校は、韓国の南西端近くにある風光明媚な木浦市郊外にあり、1994年に設立された私立総合大学です。1997年の李副総長と高工学部長による本学訪問が契機となって交流が始まり、以来工学部を中心に学術及び学生交流が深められてきましたが、今後は全学的に交流が期待される大学です。

大仏大学校は、8学部、22学科に加え、6大学院を合わせ持ち、約5,000人の学生が学んでいます。8付属研究所、11の関連施設を持ち、後者には、全学生の35%を収容できる学生寮があり、また、訪問教員と留学生のための国際宿舎も新設されています。国際交流に対する意識が極めて高く、現在交流協定を結んでいる大学は、東北学院大学を含む10ヶ国、25大学に上っています。さらに、関連施設として木浦中央病院を始めとする医療施設を持ち地域社会に直接貢献するとともに、その内容が、例えば言語障害療法学科や聴覚療士士の養成にみられるように、大学の研究・教育に反映されています。地域産学共同活動にも熱心です。李副総長をはじめ、教職員の6割強がクリスチャンです。近い将来、木浦は、フランス製の新幹線で首都ソウルと結ばれるようですが、地方にある大学の生き方として、大仏大学校は参考になると思われます。

本学の今後の交流活動としては、オーストラリアのニューサウスウェールズ大学、シドニー大学、カナダのビクトリア大学、フランスのサヴォア大学と近い将来協定を結べるように準備をしています。



大仏大学校との調印式

#### 国際交流協定校 (2004.2.20現在)

Ursinus College アーサイナス大学(アメリカ)  
Franklin and Marshall College フランクリン・アンド・マーシャル大学(アメリカ)  
Fachhochschule Wiesbaden ヴィースバーデン大学(ドイツ)  
Pyongyang University 平澤大学校(韓国)  
Daebul University 大仏大学校(韓国)  
Nankai University 南開大学(中国)  
University of Durham ダラム大学(イギリス)  
University of Ulster アルスター大学(イギリス)

問い合わせ先 国際交流センター事務室  
TEL 022-264-6425/6404  
E-mail ICO@tscc.tohoku-gakuin.ac.jp

## Institute for Research and Center info.

### 研究所・センターより

#### 教育研究所の近況

教育研究所長 大江 篤志

昨年9月11、12日に、東北学院大学を会場として、「第53回東北・北海道地区大学一般教育研究会」が開催されました。倉松学長を委員長として、本学教職員の献身的な努力により、無事に終了することができました。

研究会では、本学の多数の先生方が、分科会の報告者として、司会者として、記録者として活躍されました。この中でもとりわけ注目したいのは、本学の先生方が、さまざまな角度から、学生の教育に努力している点です。しかし、こうした努力が学内でどのくらい知られ、理解され、そして評価されているのでしょうか。はなはだ疑問です。

ここ数年のことを振り返ってみると、カリキュラム、入試などの改革にしろ、個々の先生方の教育努力にしろ、いつしか書類の山の中に埋もれ、あるいは日常のルーチンの中で忘れ去られているのではないかという思いを禁じ得ません。

今年度の本研究所の総会では、こうした事態に鑑み、本研究所発行の『東北学院大学教育研究所報告集』を、さまざまな水準での教育努力を学内外に広く知ってもらい、そして評価してもらうための場として活用していくことが決定されました。今年度は、先に述べました一般教育研究会で発表していただいた幾人かの先生方に投稿をお願いしております。ぜひご覧ください。

問い合わせ先 教育研究所  
TEL.022-375-1184



## Library info.

### 図書館より

#### 東北学院大学図書館における 利用者サービス最新情報

今日の大学図書館は、教育及び学習に必要な学術情報や資料を収集・蓄積・提供をする情報発信基地として多種多様な利用者サービスを行っています。しかし、近年の情報量の増大とメディアの変化はめざましく、従来の図書館のイメージが大きく変化しています。

東北学院大学図書館では、利用者サービスや情報サービスの向上を図るため、いち早く電算化に着手し、本学独自の図書館システムを稼働しています。これにより、資料提供の迅速化、利用者への貸出・返却手続きの軽減化、レファレンスサービスの充実など、多様で高度なサービスが可能となりました。

また、学内におけるキャンパスネットワーク環境も整備され、Web版OPAC(オンライン総合目録)の開始により、全キャンパス図書館所蔵の蔵書検索が、学内外から容易にアクセスすることができます。さらに、インターネット・CD-ROMなどの電子情報の収集、所蔵データベースの構築や公開、インターネットによる検索ツールの確立、オンラインジャーナルの導入など、電子化に向けてソフト・ハード両面の整備・拡充を進めています。

図書館の相互利用についても、仙台市を中心とした大学・短期大学及び宮城県図書館の蔵書目録を同時に検索することができる『学都仙台オンライン目録』の利用や、国立情報学研究所などの外部データベースオンライン検索の利用により、必要とする資料をリアルタイムで情報収集することが可能となりました。そして、この所蔵データにより、他大学図書館への複写依頼や圖書の相互貸借も、より迅速な形で行っています。

問い合わせ先 図書館事務室  
TEL.022-264-6491  
URL <http://www.lib.tohoku-gakuin.ac.jp>  
E-mail [query@lib.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:query@lib.tohoku-gakuin.ac.jp)



土樋キャンパス シュネーダー記念中央図書館



### 「KNOPPIX-EduTG (クノーピクス)」を使用した 新しいIT教育システムの試み

工学部IT教育委員会委員長・工学部助教授 小野 孝

今までのIT教育やIT関連教育科目の授業は、大学内の情報演習室に用意されたWindows (ウィンドウズ) に代表される基本ソフトウェア (OS) と各種応用ソフトウェアを使って行われており、工学部でも充実したネットワーク環境を含んだ十分に高い水準のIT教育を実施できる体制が整っています。

一方、学ぶ学生諸君の立場に立てば、IT教育やIT関連教育科目では、実際にコンピュータに触れて行う実習や自己学習の時間確保がとて大切であることは明らかなのですが、今までのIT教育環境では、情報演習室のような特定の施設内でしか実習や自己学習を行うことができず、この点が学生諸君の学習上不便なことであります。

その解決には、学生諸君が必要なソフトウェアを購入し、自宅にあるコンピュータ上で学習を行えばよいのですが、そのためには高額な出費を必要とし実現は困難でした。

工学部では、その解決のための検討を重ねた結果、工学部でのIT教育に使用する基本ソフトウェアにLinux (リナックス)、そして応用ソフトウェアにオープン・ソースのソフトウェアを組み合わせたシステムを完成させました。

そのシステムは、「KNOPPIX-EduTG (クノーピクス)」と呼ばれ、たった一枚のCDの中に、基本ソフトとIT教育に必要な高度な応用ソフトウェア数百本を含んでおり、Windowsが動作する多くの普通のコンピュータ上で使用できます。

学部単位でのKNOPPIX-EduTGの採用は日本初の試みです。この先進のシステムであるKNOPPIX-EduTGのCDは、昨年の12月2日より工学部の「全学生」に「無料」で配付が開始されています。そして、工学部ではこの優れたシステムが、各種IT教育科目の講義並びに学生諸君の予習復習に存分に活用されていくことを期待しているのです。



KNOPPIX-EduTGのCD



KNOPPIX-EduTGの起動画面

### 学都仙台単位互換ネットワーク — 今後の展開と課題 —

教務部長 高橋克己

「学都仙台単位互換ネットワーク」が発足してから、まもなく3年が経過します。昨年12月には、当初の協定が平成16年4月から4年間さらに更新されることが決まりました。この「ネットワーク」は、国公立が3校、私立が14校、4年制大学が12校、短期大学が5校から出発しました。総合大学があり、教育、福祉、芸術、工業、農業、体育の分野を中心とする大学・短期大学があるというように、種類・規模も多様です。平成16年4月からは、2つの国立工業高等専門学校が参加が決定しております。

派遣・受入れ状況の延べ人数は、平成13年度には109名 (前期67名、後期42名)、平成14年度には191名 (前期106名、後期85名)、平成15年度には115名 (前期72名、後期43名) となっています。平成15年度は、前年度に比較して減少しています。これは、女子短期大学の廃止など、女子大学の改組の動きも少なからず影響しているようです。女子大学の学生が、多くの他大学に出向していることが目を引きます。

提供科目数は、平成13年度は487科目でしたが、平成14年度には800科目になり、平成15年度もほぼ同じ水準を維持して790科目でした。この傾向は、今後も持続することが予想されます。

このようにみえますと、「単位互換ネットワーク」の目的の一つである「学習意欲のある学生に対して多様な授業科目の履修機会を提供する」ことは果されつつあるようです。しかし、今後、この「ネットワーク」をさらに充実させていくためには、本学をはじめ、加盟大学・短期大学が発足当初の意識に立ち返って、個別的かつ全体的に受講状況の分析、それに基づく提供科目の再検討、さらに学生への活発な広報活動を絶えず行っていくことが不可欠です。

また、大学の持つ知的資産の社会的還元という視点からいいますと、学生がこの「ネットワーク」を十分活用できるようにするために、大学間の移動時間・費用の節減を図る施策とともに、高学歴・高齢化社会という現実を認識すると、社会人 (一般市民) に学習機会を提供することをも視野に入れた新たな構想も考えられます。

最近、いくつかの大学と「高等教育ネットワーク・仙台」の充実に努めている仙台市が連携して、いわゆるサテライトキャンパスを展開する構想が伝えられています。「単位互換ネットワーク」の充実のためにも、その構想が実現することによって、総合的・体系的な学びの場が構築されることを期待するものです。

大学

大学院

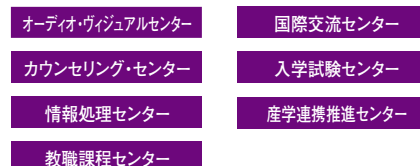
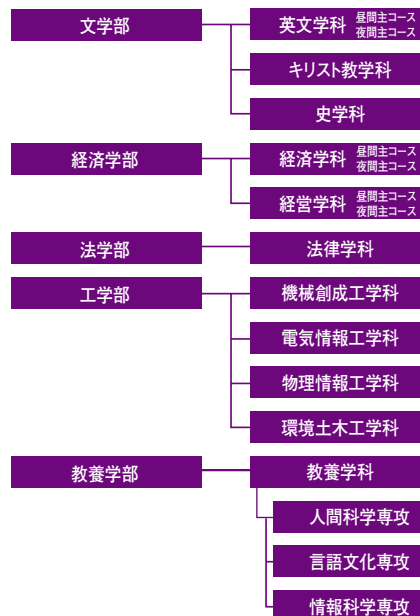
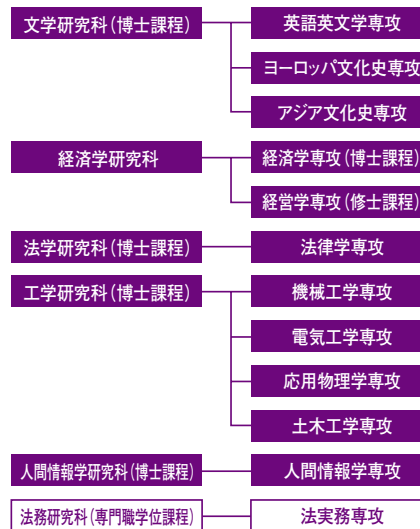
学部

宗教部

図書館

研究所

センター



## 就職部より

### 東北学院大学における就職支援

長引く国内の景気低迷と就職氷河期が叫ばれてスタートした平成15年度の就職活動もいよいよ終盤です。就職を希望する多くの学生は内定を得ましたが、現在活動中の学生も少なくありません。就職部ではそのような学生に対し、卒業直前まで（場合によっては卒業した後も）最新の求人情報を提供するとともに、窓口相談にも努めています。

一方、3年生に対しては、情報セミナー、業界研究講座、SPI試験、企業研究講座、各説明会などの「就職支援プログラム」を通じて、学生の求職意識の向上とスキルアップを行っています。さらに、今年度は初めての試みとして、文学部・経済学部・法学部の学生を対象に、就職課の職員が、グループごとに学生個々人と膝を交えて就職に対する相談会を実施しました。また、昼の休憩時間を利用し、就職の内定を得ている4年生から3年生へのアドバイスの機会なども設け、学生のニーズに応えています。

2年生に対しては、全学部対象の就職ガイダンスと適性検査を実施しました。今年の参加者は、昨年のガイダンス参加者の3倍にも上り、就職活動に対する低学年からの意気込みを十分に感じています。

現在、就職部では、大きな就職支援企画としてインターンシップを立ち上げようとしています。これは全学部の3年生（現2年生）を対象に導入する予定で、今その準備にあたっています。体験期間は、平成16年8月1日から9月15日までの10日前後を予定しています。

「就職支援」をモットーに学生を応援している就職部です。ご父母の皆さまのご協力、また、各企業・各事業所、学生を取り巻く地域の方々のご協力を得ながら、なお一層、サービスの充実を図っていきたく考えています。問い合わせ先は以下のとおりです。就職部を遠慮なくご利用ください。

問い合わせ先 土樋キャンパス 就職課 TEL.022-264-6481  
多賀城キャンパス 就職係 TEL.022-368-1101  
泉キャンパス 就職係 TEL.022-375-1161

## 入試センターより

### 一般入試（前期日程）の志願状況

平成16年度入学者選抜のための一般入試（前期日程）が2月1日から4日まで、仙台、多賀城の本学キャンパスのほか、全国7ヶ所（札幌、青森、盛岡、秋田、山形、郡山、東京）の試験会場で実施されました。

志願者は全学で8,125名（昨年は8,911名）、募集定員に対する倍率は6.9倍で、各学科・専攻の志願者数と倍率は次のとおりでした。

英文学科(昼)	813名(5.2倍)	法律学科	1,256名(7.1倍)
英文学科(夜)	76名(4.2倍)	人間科学専攻	346名(9.6倍)
キリスト教学科	4名(1.3倍)	言語文化専攻	258名(7.2倍)
史学科	706名(6.9倍)	情報科学専攻	254名(8.5倍)
経済学科(昼)	2,003名(8.2倍)	機械創成工学科	325名(6.5倍)
経済学科(夜)	113名(3.2倍)	電気情報工学科	390名(7.8倍)
経営学科(昼)	1,119名(8.1倍)	物理情報工学科	158名(4.9倍)
経営学科(夜)	113名(7.5倍)	環境土木工学科	191名(3.8倍)

なお、3月9日には一般入試（後期日程）が行われます。

問い合わせ先 入試課 TEL.022-264-6455

### 東北学院大学

#### ■土樋キャンパス

大学院：文学研究科、経済学研究科、法学研究科  
学部：文学部・経済学部・法学部（各3・4年）  
〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号  
TEL.022-264-6421 FAX.022-264-3030

#### ■多賀城キャンパス

大学院：工学研究科  
学部：工学部  
〒985-8537 宮城県多賀城市中央一丁目13番1号  
TEL.022-368-1116 FAX.022-368-7070

#### ■泉キャンパス

大学院：人間情報学研究科  
学部：文学部・経済学部・法学部（各1・2年）、  
教養学部  
〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号  
TEL.022-375-1121 FAX.022-375-4040

### 東北学院中学校・東北学院高等学校

〒980-0811 仙台市青葉区一番町一丁目9番1号  
TEL.022-227-1221 FAX.022-227-6302

### 東北学院榴ヶ岡高等学校

〒981-3105 仙台市泉区天神沢二丁目2番1号  
TEL.022-372-6611 FAX.022-375-6966

### 東北学院幼稚園

〒985-0862 宮城県多賀城市高崎三丁目7番7号  
TEL.022-368-8600 FAX.022-309-2655



ウーラノス

東北学院大学 広報誌 vol.15

#### 広報誌編集委員会

委員長	総務担当副学長	関谷 登
副委員長	総務部長	飯土井公洋
編集長	宗教部長	佐々木哲夫
委員	文学部教授	遠藤 健一
	経済学部教授	小笠原 裕
	法学部教授	斎藤 誠
	工学部教授	石川 雅美
	教養学部助教授	塚本 信也
	総務部次長	高橋 征士
	総務部調査企画課長	井上 捷二
	総務部総務課長補佐	日野 哲
	総務部調査企画課係長	小原 武久
	総務部調査企画課	石上 貴繁

東北学院大学広報誌『OUPANOS（ウーラノス）』に関するご意見・ご質問をお待ちしております。

発行日は、5月15日・10月20日・2月20日です。

発行日 平成16（2004）年2月20日  
編集 東北学院大学 広報誌編集委員会  
発行 東北学院大学  
〒980-8511  
仙台市青葉区土樋一丁目3番1号  
TEL.022-264-6424 FAX.022-264-6364  
URL <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/>  
E-mail [c.kikaku@staff.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:c.kikaku@staff.tohoku-gakuin.ac.jp)  
印刷 (株)エイエイピー

### 教育研究振興資金募集のお願い

学校法人東北学院では、平成11年8月1日から平成16年3月31日の期間を定めて、次の事業の完遂に向けて、教育研究振興資金を募集しております。広く皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。

#### 【募金目標額10億円】

1. 東北学院育英奨学基金の増額
2. 東北学院高等学校校舎（家庭科実習室等）整備
3. 東北学院大学教育・管理棟建設（土樋キャンパス）

詳しくは、東北学院法人事務局財務部会計課までお問い合わせください。  
〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1 TEL.022-264-6467 FAX.022-264-6510



古紙配合率100%再生紙を使用しています

この印刷用紙は環境にやさしい植物性大豆インキを使用しています。